

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策2: 保健・福祉・医療に関する政策～いきいきと健康で充実した生活を過ごせるまちづくり～

施策4: 高齢者福祉の推進

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
1	高齢者施策に関する情報不足の解消と正しい情報の周知	<p>○「高齢者福祉」は、地域及び社会全体で取り上げられることの多い問題であり、鴻巣市においても、各種支援制度が構築されている。</p> <p>しかし、高齢者の視点で考えたとき、将来に対する漠然とした不安が消えない。</p> <p>介護支援に対する、理解や準備がまだまだ市民の中に浸透していないのではないのか。</p>	<p><市の現状や医療支援制度、施設及び制度の関係性を正しく周知する></p> <p>鴻巣市内の75歳以上の介護保険制度の利用者がどのくらいの割合なのかなど、市の現状を市民に周知するべきである。</p> <p>そして、介護保険制度利用予備軍である65歳前後の方が、福祉環境を知り関心を持つことで、市の予防サービスに積極的に参加する機運を作るべきである。</p>	④検討課題とする	<p>市で定める「鴻巣市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」にて、現状の概要は明記していますが、ご提言の75歳以上の割合等までは示しておりません。</p> <p>どのようなデータを提示することが、制度理解の促進と今後の介護予防の実践に繋がるか、ご提言を踏まえながら、今後とも多角的に検証を進めてまいります。</p>	長寿いきがい課
2		<p>○ 支援窓口となる、地域包括支援センターと在宅医療連携センターの相関関係が個人利用者にとってわかりづらい。</p> <p>○ 介護保険制度について、ポケットサイズのリーフレットでは認定申請からの流れがわかりづらい。</p>	<p><市の現状や医療支援制度、施設及び制度の関係性を正しく周知する></p> <p>具体的な市の支援制度、施設の関係性、担当窓口を正しく周知し知ってもらうことで、不安感の解消にもつながる。</p> <p>わかりやすい福祉サービスの一覧表を作成し、PRIに努めるべきである。</p>	①既に実施済み	<p>提供する高齢者福祉サービスについては一覧表を作成し、本所・両支所(福祉グループ)の窓口で提供しております。</p> <p>また、平成30年度からは、各課で実施している「高齢者が生活を営む上で有効な事業やサービス」を取りまとめた『長寿いきがいガイドブック』を作成して各公共施設へ閲覧用として配付し、本市の全体的な高齢者に対する事業やサービスを周知しております。</p> <p>今後とも、わかりやすい周知に努めてまいります。</p>	長寿いきがい課
3			<p><市の現状や医療支援制度、施設及び制度の関係性を正しく周知する></p> <p>アクティブシニアから要介護までの段階ごとに、どんな支援を受けられるのかをわかりやすく周知するべきである。</p> <p>一つの方法として、健康診断のお知らせに介護情報欄を設けることで、健康意識の高い人、介護予防に意識を持っている人に効果的に周知できると考える。</p>	⑤現時点では実施しない	<p>毎年3月上旬に翌年度の「いきいきシニア(介護予防)カレンダー」を作成して各公共施設の他にも医師会・歯科医師会・薬剤師会を通して関係機関の窓口を設置していただき、多くの高齢者に介護予防体操やサロンへ参加していただけるよう介護予防事業の周知を行っております。</p> <p>また、現在健康診断等の案内を、はがきにて対象者全員に送付しておりますが、はがき紙面の都合上、追加で介護情報を載せることが困難な状況であり、ご理解頂きたいと考えます。</p> <p>なお、後期高齢者医療制度加入者に対する健康診査では、対象者全員に送付するご案内に健康長寿のための生活習慣等のページを設け、周知しております。</p>	健康づくり課 長寿いきがい課 国保年金課
4			<p><市の現状や医療支援制度、施設及び制度の関係性を正しく周知する></p> <p>親の介護を初めてする方が、いざというときに慌てないために、現役世代向けの勉強会を開催するべきである。</p> <p>さらに、数年前からの福祉の流れを知ってもらう仕掛けを行うべきである</p>	①既に実施済み	<p>現在、ご提言に対応した取組として、出前講座に『知っておきたい介護保険の話』(はじめよう！介護予防(筋身体操編、忘れん脳生活編))『のすここ体操』の3つを実施しており、一定以上の方が集まれば、担当職員が講師となり講座を行い、介護保険制度や介護予防事業について周知しています。</p> <p>更なる利用者増に結び付けられるよう、周知の工夫に努めます。</p>	長寿いきがい課
5			<p><市の現状や医療支援制度、施設及び制度の関係性を正しく周知する></p> <p>ポケットサイズのリーフレットなどは読みづらい面があるので、用紙サイズ・文字を見やすい大きさに変更するべきである。</p>	①既に実施済み	<p>窓口・各包括支援センター窓口には、A4版で大きな文字を使ってわかりやすい介護保険のリーフレットを設置し配布しています。</p> <p>ご提言も参考に、更なる読みやすさの工夫に努めます。</p>	長寿いきがい課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策2: 保健・福祉・医療に関する政策～いきいきと健康で充実した生活を過ごせるまちづくり～

施策4: 高齢者福祉の推進

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
6	介護予防事業の拡充	<p>○ 市が展開する各種介護予防事業において、催しの参加者数に一定の向上傾向はあるものの、アクティブシニアのニーズに合致していない側面がある。</p> <p>○ 認知症や脳梗塞の発症予防策として「食育」が効果に期待を持てるのではないかと。</p> <p>○ 認知症の患者数が増えている実感がある中で、予防に向けた取組と認知症の方とその家族へのケアを更に充実させる必要があるのではないかと。</p>	<p><気軽に参加してもらえる予防事業づくり> 介護予防事業の内容拡大を図り、未参加者に対する啓発の検討を更に進めるべきである。</p>	①既に実施済み	<p>「いきいきシニア(介護予防)カレンダー」をはじめ、市の広報紙やホームページ等を利用して、積極的に介護予防事業の周知・啓発を行っております。</p> <p>また、極端に介護予防事業の参加者が少ない地域に対しては、回覧板等を利用しピンポイントでの周知も行っております。</p> <p>ご提言を踏まえ、更なる周知に努めてまいります。</p>	長寿いきがい課
7			<p><気軽に参加してもらえる予防事業づくり> 利用者の多い民間施設の手法を参考にした制度設計を図るべきである。</p>	④検討課題とする	<p>他市町村の介護予防事業の情報などにも注視し、調査・検討して参りたいと思います。</p>	長寿いきがい課
8			<p><気軽に参加してもらえる予防事業づくり> 健康教室の敷居が高く、初心者は気軽に参加できない。特に男性の参加を増やす取組が必要であり、歩いて行け、地域内で顔見知りと参加できる教室を検討するべきである。 (例)学校の空き教室を活用した自治会単位のミニ講座</p>	①既に実施済み	<p>介護予防事業の一つである『のすっこ体操』は、歩いて通える地域内で、近所の仲間同士が集まって実施していただく事業です。実施できる場所さえ用意していただければ、道具の貸出しは無料でっており、地元でも検討しやすく、参加しやすい事業であると考えています。</p> <p>また、各種職員出前講座で栄養や心の健康をテーマとしたミニ講座を実施しているほか、自治会等の単位で健康づくりに関する講座のご要望もお受けしています。</p> <p>ご提言の更なる敷居を下げる工夫についても、先進事例等の研究を重ね、周知・実施してまいります。</p>	健康づくり課 長寿いきがい課 スポーツ健康課
9			<p><食育のモデルを示すことによる予防事業の実践> 市と医師会、そして地域が連携してモデル地区を設定し、食事改善の強化を図り、成功事例の横展開を進めるべきである。</p>	①既に実施済み	<p>介護予防事業の一つとして、平成30年6月から、管理栄養士を高齢者の自宅に派遣して栄養指導や調理支援を行うことで、高齢者の心身の脆弱化を防ぐことを目的とした短期集中訪問型栄養指導事業を開始し、利用者からは栄養面等に改善があったとの一定の評価を得ています。</p> <p>また、職員出前講座を希望する団体に対し実施しており、食に関する講話と媒体を利用した参加型の講座を行っております。この講座を通して地域の皆さんに食育を推進するとともに、各種事業の情報共有と成功モデルを積み重ねてまいります。</p>	健康づくり課 長寿いきがい課
10			<p><食育のモデルを示すことによる予防事業の実践> 食育は日々実践していくことが大切であり、高齢になってから始めたのでは遅い。 環境分野のエコポイントを参考に、気軽に成果の見える事業を行うことで、定着化に結び付けてほしい。</p>	⑤現時点では実施しない	<p>ご提言の、ポイント制度等による食育への取組支援については、良い提案とも考えます。</p> <p>一方で、食育以外の健康・介護予防事業の取組も含めた枠組の検討や、インセンティブの予算化等、課題事項も様々考えられることから、現時点で実施検討は難しいものの、先進事例の研究等は進めてまいります。</p>	健康づくり課 長寿いきがい課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策2: 保健・福祉・医療に関する政策～いきいきと健康で充実した生活を過ごせるまちづくり～

施策4: 高齢者福祉の推進

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
11			<食育のモデルを示すことによる予防事業の実践> 市役所庁舎にタニタ食堂のように、市民のモデルとなる食育推進の場を設けるのはどうか。	⑤現時点では実施しない	現在、市役所新館入口の総合案内隣において、食育推進の場として2か月毎にテーマを変えたフードモデルの展示と資料のリーフレットを置き、市民のみならず自由に持ちいただけるようにしています。また、市内公民館においても食育のパネル展示を行っています。 ご提言の「タニタ食堂」等は、インパクトや効果も多いと理解する一方で、経費や管理の方法等で検討要素も多く、現時点で実施検討は難しいものの、先進事例の研究等は進めてまいります。	健康づくり課 長寿いきがい課
12			<緊急医療キットの提供> 日ごろの健康状態や薬の服用状況などを携帯でき、家族が常に側にいなくとも周囲がケアできる仕組みを検討すべきである。	⑤現時点では実施しない	現在鴻巣市では、管内救急活動を行う「埼玉県中央域一部事務組合」及び「社会福祉協議会」と連携し、無料で服薬状況等を確認でき、緊急連絡先の記載も可能な「お薬手帳」の活用啓発と、支部社協事業として『安心カード』を配付する事業による、支援を行っています。 ご提言の緊急医療キットの導入については、費用面での制約もあり、現在実施内容の効果を関係機関と検証しながら対応を図りたく、現時点での導入は考えておりません。 (※安心カード:助成金で安心カードを入れる袋やマグネットを購入していただき、住所・氏名・生年月日、血液型、現在の病気・薬の内容、緊急連絡先等が記載された安心カードを冷蔵庫などに設置してもらう。)	健康づくり課 長寿いきがい課
13			<緊急医療キットの提供> 緊急医療情報キット(持病や服薬情報、保険証情報など)の、統一導入を検討するのはどうか。 (例)上尾市:冷蔵庫に保管できる緊急医療情報キットを65歳以上の高齢者世帯などに配布)	⑤現時点では実施しない	現在、本市では、会話を通して考える事が脳の活性化を図り認知症予防にも重要と考えており、介護予防リーダーがお話をお聞きする「傾聴活動」や高齢者の方が集う「わがまちサロン」などの開催を通じて、脳の活性化のほかに、利用者へ様々な情報が提供できているものと考えております。 現時点ではご提言事項の検討は考えておりませんが、今後の参考とさせていただきます。	長寿いきがい課
14			<認知症予防のための脳の活性化を促す仕掛け> 考えることは脳の活性化につながり介護予防としても効果的である。耳からの情報としてフラワーラジオを活用した介護特集や利用者の声を発信するのはどうか。	⑤現時点では実施しない	現在、本市では、会話を通して考える事が脳の活性化を図り認知症予防にも重要と考えており、介護予防リーダーがお話をお聞きする「傾聴活動」や高齢者の方が集う「わがまちサロン」などの開催を通じて、脳の活性化のほかに、利用者へ様々な情報が提供できているものと考えております。 現時点ではご提言事項の検討は考えておりませんが、今後の参考とさせていただきます。	長寿いきがい課
15			<認知症予防のための脳の活性化を促す仕掛け> ケアの面になるが、徘徊を防ぐ見守りステッカーの配布など、未然に防ぐ対策も充実させるべきである。	①既に実施済み	一般介護予防事業の一つとして「ひとり歩き高齢者みまもりグッズ」の配布事業を実施しています。登録番号の入った蛍光ステッカー、アイロンプリントシール、キーホルダーを徘徊のある高齢者に所持していただき、同情報を両支所、鴻巣警察署、地域包括支援センターで共有し、所在不明となった際の早期発見や、保護された際の速やかな身元特定に役立てています。 また、高齢者福祉サービスには「高齢者等探索サービス」という事業があり、対象者に位置検索端末機を所持していただき、仮に徘徊があっても対象者の居場所が把握でき、早急に保護することができます。 これら事業の成果も順調に出ていることから、今後も更なる周知を進め、ご提言の未然防止に努めてまいります。	長寿いきがい課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策2: 保健・福祉・医療に関する政策～いきいきと健康で充実した生活を過ごせるまちづくり～

施策4: 高齢者福祉の推進

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
16	地域による支え合い体制の強化	<p>○ 地域の支えは非常に重要であるが、まだまだ支えあいの意識が低い実感がある。また、核家族化が進んだ現代では、近所付き合いが希薄化していることから、高齢者夫婦世帯・独り世帯においては周囲へのSOSが難しいと考えられる。</p> <p>○ 高齢者が自主的に自治会やボランティアの場で活動すること＝仕事や家庭以外でのコミュニティに属することで、社会とのつながりが強化され、アクティブシニアの健康寿命が延び、介護予防につながり、良い循環を生むのではないか。</p> <p>○ アメリカでは、例えば旅行期間の短期間でのボランティア等を受け入れる体制や事業が整備されている。 よくあるボランティアが、若干ハードルが高い気がする中で「もっと気軽に参加できそうだ」と思えるような、内容・PRの改善が必要なのではないか。</p>	<p><地域で助け合う意識醸成の更なる促進> 専門家だけでなく、地域の力で手助けし合う環境づくりが必要であり、その枠組みづくりを市が積極的に関与するべきである。</p>	①既に実施済み	<p>本市では、平成29年度より生活支援体制整備事業を始めています。 この事業は、介護保険制度等の公的事業とは別に、地域の中で支え合う仕組み作りを構築していくという内容であり、現在、同事業を鴻巣市社会福祉協議会へ委託し展開する中、今後は、本市を8圏域に区切った中で第2層協議体を設置し、高齢者が住み慣れた地域で生活するにあたり何が不便か、足りないかなどを掘り起し、どうしたら解決できるかなどを圏域ごとに検討していますので、今後の成果にご期待ください。 また、更なる小さい自治会等の単位においても、災害時における地域コミュニティの重要性が認識されていますので、先進事例を自治会研修会等で紹介できるよう、支援体制の強化に努めてまいります。</p>	福祉課 長寿いきがい課 自治文化課
17			<p><地域で助け合う意識醸成の更なる促進> ボランティア活動が生きがいとなり、結果的に社会へ還元される形が理想である。利用者からの感謝の声を広報し、手助けを求めやすくする環境づくりを行うことを検討してほしい。</p>	②H31年度に着手予定	<p>各地域でのボランティア活動は、地域の支えあいや生きがいづくりにもなると考えており、市としてもボランティア活動を活発に行えるよう、積極的な後押しをしたいと考えています。 市民ボランティア(無報酬)の「介護予防リーダー」や「のすっこ体操サポーター」の協力により展開されている事業について、協力していただく介護予防リーダー等や利用者の声を広報紙で周知する事で、介護予防リーダー等の担い手や利用者の増加にもつながり、より一層、介護予防の促進が図られるものと思います。 また、ボランティアへのきっかけづくりとして「おとな大学ボランティア学科」の開催等についても、広報紙やHPで周知するよう検討していきます。 なお、現在、市民活動団体や自治会の紹介等については、市民活動情報サイトや情報誌にて周知啓発を行っていますが、今後との周知の工夫による充実化に努めます。</p>	福祉課 長寿いきがい課 自治文化課
18			<p><地域で助け合う意識醸成の更なる促進> 自助努力、さらには「近助(ご近所同士で助け合うこと)」の強化を、市は積極的に支援するべきである。</p>	①既に実施済み	<p>良好なコミュニティを構築している自治会などの参考事例や研究事例等、自治会研修会等の機会において紹介することにより支援体制の強化を図るとともに、支部社協が開催する「地区懇談会」「支部福祉委員会」等と協働し、地域の支え合いに対する意識醸成を図ります。 また、前述する「生活支援体制整備事業」等により、地域支え合い体制の強化を図ります。</p>	福祉課 長寿いきがい課 自治文化課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策2: 保健・福祉・医療に関する政策～いきいきと健康で充実した生活を過ごせるまちづくり～

施策4: 高齢者福祉の推進

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
19			<p><自治会・町内会単位での小規模ボランティア制度の構築> 気軽な社会参加・ボランティアの促進策として、地区単位での簡単なボランティア事業の構築と、地区外からも簡単に参加できる枠組み(HPなども使わないで成立出来る仕掛け)などを、市内全体で議論できるよう、検討してはどうか。</p>	⑤現時点では実施しない	<p>ボランティア活動については、各地域や近隣者などで行うことで、より地域に密着した活動ができると考えており、実際に地域単位で地域に即したボランティア活動を行っている団体も多く存在しています。</p> <p>各地域での簡単なボランティア事業の枠組みづくりに関しては、地域ごとに適した内容にするべきと考えており、市が仕組みをつくるのではなく、先駆事例の紹介等、活動の後押しを行っていきたいと考えています。</p> <p>市全体の生活支援体制整備(支え合い)については、引き続き鴻巣市支え合い推進会議において議論を進めます。</p>	福祉課 長寿いきがい課 自治文化課
20			<p><自治会・町内会単位での小規模ボランティア制度の構築> ひとり暮らしの高齢者に対しては介護予防策として、電話での話し相手となること、傾聴すること、仲間づくりの支援などが有効と考えられるので、こういった利用しやすい枠組みがあると効果的である。</p>	①既に実施済み	<p>現在、介護予防リーダーによる「傾聴活動(自宅訪問)」や「わがまちサロン」等により、利用者の話し相手や傾聴・仲間づくりの場を提供しています。</p> <p>また、社会福祉協議会の活動として、電話での友愛活動である「友愛電話」や「気軽に集える居場所(サロン)づくり」を実施しており、更に活動を推進してまいります。</p>	福祉課 長寿いきがい課 自治文化課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策2: 保健・福祉・医療に関する政策～いきいきと健康で充実した生活を過ごせるまちづくり～

施策4: 高齢者福祉の推進

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
21	担い手の確保策	<p>○ 人口減少、高齢化する将来に向けて、鴻巣市のみならず全国的に働き手の減少が確実に見込まれる中、プロ・アマ含め、サービスの担い手確保は急務である。</p> <p>○ とりわけ介護の分野においては働き手の処遇改善が課題であるが、一方で保険料に跳ね返ることとなるため、人材確保は困難な状況である。</p>	<p><担い手のすそ野の拡充> プロに頼るだけでなく、誰でも手伝いのできるようなケア分野に、人材を登用できる窓口をつくるべきである。</p>	①既に実施済み	<p>介護予防リーダー養成講座を受講していただき、「傾聴活動(自宅訪問)」や「わがまちサロン」などの介護予防事業の担い手としてご協力頂いております。</p> <p>また、「のすっこ体操サポーター」においては、サポーター養成講座を受講していただき、各団体が「のすっこ体操」を単独で活動できるまでサポートして頂いております。</p> <p>市としてもご提言事項は課題と捉えている中、養成講座を受講頂くことが担い手確保に繋がるものと考えており、積極的に受講勧奨に努めてまいります。</p>	福祉課 長寿いきがい課
22			<p><担い手のすそ野の拡充> 有資格者を増やすことだけでなく、介護のレベルによって担い手の棲み分けを行い、担い手のすそ野を広げること検討すべきである。</p>	①既に実施済み	<p>ボランティアやサポーター等の身近な支援の担い手確保については、前述のとおりです。</p> <p>一方で事業所での取組支援として、本市では、介護保険制度にて比較的軽度である要支援1・2及び事業対象者が利用する通所介護や訪問介護については、基準緩和型の事業所でも参入する事が可能としており、適正監督の下で、裾野を広げる工夫を施しています。</p> <p>そして、この基準緩和型の事業所の担い手になれるよう、鴻巣市生活支援体制整備事業の業務委託内容の一つに「サービス・支援の担い手に養成に関すること」を設けており、平成28年度には23名の方が担い手として養成講座を終了いたしました。</p> <p>法律上の制約や予算措置に課題もありますが、国・県等の動向も注視し、拡充に努めてまいります。</p>	福祉課 長寿いきがい課
23			<p><活動対価の充実化> 人的確保の促進にあたり、活動に対する対価(ポイント制による還元など)を充実させることを検討するべきである。</p> <p>例えば、現在、社会福祉協議会で行われる「地域支え合い事業: 思いやりの輪」では有償ボランティアへの謝礼としてお買物券が渡されており、いい取組なのだが、お買物券が活動先の地域(鴻巣地域と吹上地域)での利用に限定されている。利用可能店舗を市内全域へ拡大させるなども検討してはどうか。</p>	④検討課題とする	<p>ボランティアポイント制度を実施する場合には、ボランティアを受け入れる施設の種類や、行っていただくボランティアの範囲・種類、市の介護予防事業に協力していただいている無償ボランティアとの調整、ボランティアポイントを管理する実施主体の選定、ボランティアに対してどのように参加を支援していくかなど、実現にあたって検討すべき課題も多数あります。</p> <p>ご提言のとおりメリットも大きいと思われまますので、これらの課題を含め、多角的に検討していきます。</p> <p>なお、お買物券のご指摘については、現在、商工会に加入している全店舗(約200店舗)を取扱対象としており、地域限定はしていません。</p>	福祉課 長寿いきがい課

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策2: 保健・福祉・医療に関する政策～いきいきと健康で充実した生活を過ごせるまちづくり～

施策4: 高齢者福祉の推進

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
24	若い世代の意識改革	<p>○ 若い世代では「介護は専門職がセンターでやるもの」という認識が強く、支え合いの意識が希薄である。</p> <p>○ 若い世代向けの介護講座はほとんどないのが実態である。若い世代に向けてシニア世代への理解を促すことで、将来高齢者になったときの行動にも良い影響が生まれると考えられる。</p> <p>○ 市の高齢者向け施策を、利用者層だけでなく若い世代へも周知し、介護に対する意識を変えることから目指すべきである。</p>	<p><若い時期から介護の意識を定着させる仕掛けづくり> 高齢者に向けた取組だけでなく、若い世代へのアプローチを積極的に行うべきである。 高齢者に対する意識をもち、考える機会として、成人式での介護体験を検討するのはどうか。</p>	①既に実施済み	<p>ご提言のとおり、若い世代へのアプローチは重要である、と認識している中で、担当職員等が要請のあった中学校や小学校へ訪問し、認知症という病気に対する理解や認知症高齢者の対応について啓発する機会を設けており、今後市内高校にも開催を広げる予定です。</p> <p>なお、ご提案の成人式での介護体験等については、構成上、実現は厳しいのが実情です。また、課外授業や夏休み期間を利用したボランティア講座の実施については、時間的制約等の点からも、同じく現状での実施は困難と考えています。</p> <p>一方で、主体的な学習を促進する「こども大学こうのす」では実現余地はあると考えており、実施にあたり、受講生となる小学4～6年生を考慮しながら、高齢者に対する理解・関心をもってもらえるような講座内容の開催について検討してまいります。</p> <p>市としても重要性を認識しつつ、今後とも成人式まで待つまでもなく、様々な機会を通じ、体験を通じた支え合い意識の啓発が可能になるよう、検討してまいります。</p>	長寿いきがい課 生涯学習課 学校支援課
25			<p><若い時期から介護の意識を定着させる仕掛けづくり> 高齢者に向けた取組だけでなく、若い世代へのアプローチを積極的に行うべきである。 小学校、中学校の課外授業で、介護体験をできる取組を検討するべきである。</p>			
26			<p><若い時期から介護の意識を定着させる仕掛けづくり> 高齢者に向けた取組だけでなく、若い世代へのアプローチを積極的に行うべきである。 若い世代のきっかけづくりとして、夏休み期間を利用したボランティア講座の開設を検討するべきである。 また、こども大学こうのす内で、新たに介護・介護予防講座の開催を検討するべきである。</p>			
27			<p><ボランティアを日常に組み込む仕掛けづくり> 学業・仕事以外の時間を、介護ボランティアに充てるような仕掛けづくりを検討するのはどうか。</p>			
28		<p><取込に効果的な情報の提供> 要介護認定率が全国的にも非常に低く、介護先進事例として取り上げられる和光市の、予防に力点を置いた総合的な取組を、積極的に市民に周知するのはどうか。 目指す目標を示し、若い世代を含め市全体で共有することで、「介護に理解のあるまちづくり」がPRでき定住にもつながると考える。</p>	⑤現時点では実施しない	<p>介護予防事業の充実、介護保険給付費の圧縮から考えても重要な施策であると考えており、和光市を含めた他市町村の介護予防先進事例について注視しております。</p> <p>現段階では、それぞれ自治体の土台や特色等に違いがありやみくもに理想的な姿だけを紹介することは、混乱を招く側面もあることから、市町村の先進事業を市民へ周知することは考えておりません。</p> <p>但し、本市における介護予防事業の実施状況などについては広報紙や市ホームページなどの媒体を使いPRするとともに、実施内容と一致するような取組に対しては補足的に紹介する等も検討してまいります。</p>	長寿いきがい課	

まちづくり市民会議による提案・意見に対する回答について

政策2: 保健・福祉・医療に関する政策～いきいきと健康で充実した生活を過ごせるまちづくり～

施策4: 高齢者福祉の推進

No.	検討課題	現状と問題点	課題や問題を解決するために提案する取組	対応状況	提案・意見に対する回答	回答課
29	高齢者福祉施設のあり方	高齢者が増える一方で、高齢者福祉センターの利用は減少している。 考えられる一因として、施設の老朽化、市からの利用案内状がわかりづらいこと、市HPに情報が少ないこと、利用する人に偏りがあることが挙げられる。 社会参加促進のため、活動の場の提供は益々必要性が高くなるのに対し、本センターだけで対応するには、限界があるのではないか。	<高齢者福祉施設のあり方の見直し> 福祉施設が老朽化していることもあり、今後の在り方を検討する時期にきているのではないかと。近隣の民間施設を利用する際の割引サービスなど、代替案も併せて検討するべきである。	④検討課題とする	現在本市では「鴻巣市公共施設等総合管理計画」を定め、公共施設のあり方を多角的に検証しています。 ご提言の課題や提案も十分に認識する中で、高齢者福祉施設についても、議論を重ねてまいります。	長寿いきがい課
30			<高齢者福祉施設のあり方の見直し> 利用者増のために、利用案内については、利用を促進する文面にするか記載する地図をわかりやすくすることが必要である。 市HPでは、写真を掲載することで利用のイメージがで、未利用者への利用促進になると考える。	②H31年度に着手予定	ご提言を踏まえ、できるだけ早期に対処してまいります。	長寿いきがい課
31	施策全体に対する意見		<地域人材の活用> 行田市の市民大学では、卒業生ネットワークを取り込み、人材・知識を地域で発揮できる仕組みを、分野を横断し実践している。 是非積極的に検討し、鴻巣市でも様々な分野で取り込むべきである。	①既に実施済み	鴻巣市民大学講座こうのとリアカデミーでは、様々な分野のサークルの発足の推奨をしており、開講式において受講生に対してご案内をしております。結果、主に開催した講座内容となる、歴史・論語・漢詩・合唱の4つサークルが発足しており、卒業後も活動を行っております。 今後もこの流れを維持してまいります。	生涯学習課
32	施策全体に対する意見		<周知方法の工夫> どの分野でも周知方法がワンパターン化しているため、中々興味のない人に届かないのが多く見受けられる。 伝え方、興味の引き方については、全庁的に改善策を講じられたい。	②H31年度に着手予定	ご提言を参考に、全庁的に広報や周知のあり方に工夫を施せるよう、職員研鑽の機会を設けてまいります。	総合政策課